

# 計画策定の背景

## 広島市のスポーツの現状

### <市民のスポーツ実施状況>

- ◎ 市民の週1回以上のスポーツ実施率が31.1%、今後の活動意向が62.1%とその差は31ポイントとなっており、スポーツをしたいと思っているが、実際にするところまでいっていない人が多い状況にあります。
- ◎ 市民が運動・スポーツをしていない理由として、1位が「時間がないから」(19.2%)、2位が「機会がないから」(17.8%)、さらには「きらい、苦手」(11.4%)といったスポーツ自体に関心がない人もいるなどスポーツをしていない理由は多岐にわたっています。
- ◎ 市民の運動・スポーツを行う理由・目的の1位が「健康・体力づくりのため」(40.9%)であり、多くの市民が健康づくりや体力づくりに関心を持っています。
- ◎ これからのスポーツ振興のあり方として市民が「大切」と答えた割合が高い項目は、1位が「高齢者、障害者が参加しやすいスポーツ環境の整備」(79.5%)、2位が「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」(76.4%)、3位が「運動・スポーツ施設の整備、充実と有効活用」(73.9%)となっており、誰もが気軽に運動・スポーツに親しめる環境が求められています。さらに、「市民が気軽に参加できるイベントの増加、内容の充実」が「大切」と答えた市民の割合が66.0%であり、運動・スポーツを「みんなとやりたい」と答えた市民の割合も50.4%であるなど、スポーツを通じて人とふれあえる機会や場が求められています。

### <スポーツ施設>

- ◎ 市民がよく利用する施設として「プールを含む区スポーツセンター」(20.4%)が最も多く、次に「運動広場・公園、グラウンド」(13.0%)となっています。今後も利用したい施設の1位(27.0%)にもなっており、区スポーツセンターが市民にとって最も身近な地域スポーツの活動拠点となっています。
- ◎ 区スポーツセンター等の利用促進については、次のような市民サービスの向上に努めながら、各施設ごとの年間利用者数を毎年度1.4%ずつ増やす目標を掲げて取り組んでおり、平成21年度については、施設全体の利用者数の目標を10,182人上回りました(達成率100.5%)。
  - ① 8区のスポーツ施設を2グループに分けた休館日の設定
  - ② 祝日に係る開館日の拡大や夏季における開館時間の延長
  - ③ スポーツに関する指導・助言・相談事業の拡充
  - ④ 競技力向上を目的とした練習時間確保のための臨時開館 など
- ◎ しかしながら、運動・スポーツをする場合に解決してほしいことの1位は「使いやすい施設や場所」(29.1%)となっており、より一層利用者の視点に立った施設運営に努めることが求められています。

### <運動・スポーツクラブ>

- ◎ これからのスポーツ振興のあり方として「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」が「大切」と答えた市民の割合は76.4%であり、また、学校や地域の運動・スポーツクラブに必要なものとして最も多かったのは「いろいろな種目や楽しみのあるクラブ」(23.1%)となっており、地域で気軽に参加できる運動・スポーツクラブが求められています。
- ◎ 身近なスポーツクラブの一つに小学校区単位で組織された学区体育協会がありますが、そのクラブ・同好会に加入している人の割合は全市人口の2.7%に過ぎず、学区体育協会が主催する行事への参加率も17.0%と多くの人が参加しているとは言えない状況となっています。

### <スポーツ活動にかかわる人材>

- ◎ 体育指導委員の認知度は43.3%で、運動・スポーツの指導をしてもらうことが多い人として「体育指導委員」と答えた市民の割合も僅か4%となっており、体育指導委員に関する情報の不足などにより市民が気軽に体育指導委員を活用できていない状況が伺えます。また、積極的に活動している体育指導委員がいる一方で、1か月の平均活動日数が4日以下の体育指導委員が31.2%となっており、活動状況に不均衡が生じています。
- ◎ これからのスポーツ振興のあり方として「スポーツイベントボランティアの育成、支援」が「大切」と答えた市民の割合は60.4%であり、また、22.3%の市民がスポーツボランティア活動をしたいと答えています。しかし、実際にスポーツボランティア活動をした市民の割合は僅か6.0%と非常に少ない状況であり、スポーツボランティアに対する市民の意識は高いですが、実際に活動するまでに至っていない状況です。

### <子どもの体力・運動能力>

- ◎ 62.9%の児童生徒が運動・スポーツを「するのもみるのも好き」と答えており、運動・スポーツへの関心度は高いですが、新体力テストの結果を見ると、平成21年度の広島市平均が平成20年度の全国平均と比較して「同じか、上回る」種目の割合は、小学校で24.0%(23/96種目)、中学校で29.6%(16/54種目)、高等学校で59.3%(32/54種目)と小学生及び中学生の体力が全国平均レベルを下回っています。

### <スポーツの競技力>

- ◎ 「スポーツ競技力の向上」が「大切」と答えた市民の割合は65.9%であり、国民体育大会に出場する広島市の選手の割合は広島県全体の約44%を占めています。しかし、国民体育大会の広島県の総合順位は平成8年以後、8位以内の目標を達成できておらず、特に少年の部の低迷が続いています。一方で、児童生徒が運動・スポーツに関して求める情報として「競技のルールや練習方法」が32%、スポーツの指導をしてもらいたい人として「プロのコーチ」が32.9%と最も高く、上手くなりたいという意識の高さが伺えます。

### <トップレベルのスポーツ>

- ◎ トップレベルのスポーツを観戦することは、市民のスポーツに対する関心や興味を高め、多くの市民がスポーツをする動機付けになるとともに、人が集まり、動くことで経済への波及効果やまちの賑わいの創出が期待できます。
- ◎ 「国際スポーツ大会などの開催・誘致」や「日本代表チームなどの合宿の誘致」について、半数近くの市民が「大切」と答えています。また、スポーツ競技の国際大会について、関心があると答えた市民が79.4%、児童生徒が77.4%と多くの人が関心を持っています。
- ◎ 「地元プロスポーツの振興」を72.8%、「トップレベルのアマチュアスポーツの振興」を59.6%の市民が「大切」と答えており、多くの市民がトップレベルのスポーツの振興を大切と考えています。しかし、トップス広島を知っている市民の割合は43.2%で、トップス広島としての活動が浸透しつつあるものの、知名度や注目度は全般的に高いとは言えません。観戦者数についても、プロスポーツチームである広島東洋カープやサンフレッチェ広島以外は、概ね横ばい傾向となっています。

## 広島市のスポーツ振興における課題

### <誰もが気軽に参加できるスポーツの振興>

- ◎ 子どもから高齢者、障害者など幅広い市民を対象とした気軽にスポーツに親しむための動機付けが必要です。
- ◎ 個人の健康や体力、ニーズに応じてスポーツを誰もが楽しく続けることのできる環境づくりが必要で
- ◎ 子どもが積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲を培うことにより、子どもの体力や運動能力等の向上を図る必要があります。
- ◎ 地域コミュニティの活性化に向けて、人と人がふれあい、絆を深めることができるよう、様々なスポーツの機会を創出する必要があります。

### <ジュニア層を中心とした競技力の向上>

- ◎ スポーツ人口のすそ野の拡大や競技力の底上げを図り、全国規模の大会で活躍するジュニア選手を育成する必要があります。

### <トップレベルのスポーツの振興>

- ◎ トップレベルのスポーツチームがさらに活躍できるよう、チーム活動を支援する必要があります。
- ◎ 国際的・全国的なスポーツ大会等においてトップレベル選手のハイレベルなプレーを観たり、感じたりできる機会を創出するとともに、広島市を舞台に活躍するトップレベルのスポーツチームを市民と一緒に盛り上げていく必要があります。

## 社会環境の変化とスポーツ

### <少子化・高齢化の進展>

- ◎ 少子化の進展が学校運動部活動への参加生徒数の減少をもたらすなど、競技力の低下が懸念
  - ↓
  - 学校やスポーツ関係団体等が連携し、子どもの体力・運動能力の向上に取り組むことが求められています。
- ◎ 高齢化の進展
  - ↓
  - 高齢者がスポーツを通じて健康を維持し、生き生きとしたセカンドライフを送ることへの支援が求められています。

### <価値観の多様化>

- ◎ 生きがいや様々な社会参加を求める市民が増加
  - ↓
  - スポーツを通じて爽快感や楽しさを味わうこと、健康の保持増進、さらには社会貢献など市民が様々な形でスポーツにかかわる環境を整えることが求められています。

### <地域の連帯感の希薄化>

- ◎ 都市化の進展などにより、地域におけるコミュニケーションが減少し、地域の連帯感が希薄化
  - ↓
  - 日頃行うスポーツや町内運動会等地域スポーツ活動への参加など様々な場面で地域の幅広い人たちが気軽に参加し、互いに心を通わすことのできる機会を提供することが求められています。

### <国際化の進展>

- ◎ 行政や民間などの団体レベルだけでなく、個人レベルでも多様な国際交流が進行
  - ↓
  - スポーツを通じて、国際的な友好・親善、さらには世界平和に貢献することが期待されています。